
短篇集「青い栞」

羽海野 渉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

短篇集「青い栞」

【Nコード】

N3545U

【作者名】

羽海野 渉

【あらすじ】

青春もあり恋愛もありライトノベルもありの言わば何でもありの短篇集です。

ページに青い栞を挟んで。

私の手からその鳥達は飛び立っていく。それは儚く幻に等しい。羽ばたいていく白い鳥達。どこまでも果てしなく。果てない空へ。けれどそれは私の生み出したものなんだ。

私は窓辺に座り本を開く。青い栞を挟んで。何ページも費やして綴られた僕らの物語、私の物語はいまこの場で終結していく。どんな物語だろうと、私が生み出したものにはかわりはない。

そしてコーヒーを飲む午後のひとときに。

私はページを捲り振り返る。

あの記述を。

恋するユメ。

桜吹雪が舞う、暖かい陽気の新学期の頃。僕がもし“あの”場所に行かなかったのなら、今、現在。僕はこのような気持ちを抱いていないだろう。

まず、あの人のことを知りえなかった。

話もしなかった。

そして。

好きにもならなかった。

僕は今、吹奏楽部の部室で一人で楽器をケースから出している。自分で買ったトランペットだ。汚れも傷もまだついていない。僕はその楽器にマウスピースを付けて、唇に当て、音を出す。その音は湿っている梅雨の季節の空気を一掃するかのように部室に響いた。

「おーっす、とおるんが一番乗り？早いじゃん」

僕はトランペットを唇から外し、後ろを向いた。扉を開けて入ってきたのは僕の先輩の藤原優先輩だ。先輩は背中からリュックを下ろし近くにあった机の上に置いた。そして左手に持っていたケースを開き楽器を取り出す。

とおるんというのは僕のあだ名で、僕の名前は太塚透という。この吹奏楽部の二年生でトランペット担当。二年前までトランペットに触ったこともなかった初心者だ。因みに藤原先輩は三年生で前期には生徒会役員だった秀才で僕と同じトランペット担当だ。

「何かそうみたいですよ。あ、あとこの曲のこの部分がわかんないんですけど一度吹いてもらってもいいですかね？」

「ああ、自由曲のか？いいけど」

僕は目の前にある譜面台から課題曲の譜面を取り先輩に渡した。そして先輩は

トランペットを顔の前に構え、息を吸い、音を出す。

曲はガーシュイン作曲「ラプソディ・イン・ブルー」。

先輩はその軽快なメロディーを麻の湿った空気で埋め尽くされている部室に響かした。そして、先輩はその部分を吹き終えた。

「これでいいか？覚えるよ！大会は一カ月後だ」

「分かってますよ先輩。目指すは全国ですよね？」

「勿論」

「了解です」

僕は先輩から返された譜面を譜面台に戻しトランペットを構え、今先輩にやってもらったところを吹いた。

軽快なメロディーがもう一度この部室に響く。

そして先輩のパートのメロディーも合わさる。

そして、吹き終わった。

「おっ、丁度だ。片付けの時間だよ、とおるん」

「そうですね、じゃあ片付けますか」

僕は七時三十分と針が刺された時計を見て、ケースにトランペットをしまう。

そして僕は部室を出た。

安全ってなあに？

「この地球に安全な場所なんて無いもの」

その少女は私にそう呟いた。あの事件を予測していたかのように。私の好きな、いや好きだった東京の街。青春の日々を駆けた街。でもその街は去年、私の同級生、いや敵が破壊を仕掛けた。

その敵が今度は私の“今”好きな街を破壊しようとしている。皮肉だ。渋谷に続きこの博多を破壊しようとするなんて。

「ふざけないで」

私の好きな街。好きだった街を何個奪えばあいつは気が済むんだろう。なんて。

私の好きだった彼はあいつに奪われた。しかも十二月二十二日に最低。

私の好きだった本はあいつに燃やされた。シリーズ全巻も、灰となった。

私の好きだった友達は唆され去っていった。二人残ったのが幸이었다。

そして。

私の好きだった街はあいつに破壊され“かけた”。そしてまた。

私の好きな街を破壊“しようとしている”。

「まあしかたないや。この地球に安全な場所なんて無いからね」
私は立ち上がり、懐に入っている彼女の写真を取って呟いた。
「ねっ」

街は朝焼けに染まっていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3545u/>

短篇集「青い栞」

2011年10月9日09時02分発行